

【入試ガイドブック_〈問2〉】

2024 年度入試 十文字学園女子大学 教育人文学部

文芸文化学科 総合型選抜
課 題（小論文）

【注意事項】

- 1 開始後、所定欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 2 各自が自由に考えた題名を書いてください。
- 3 小論文用紙は、横書きで記述してください。
- 4 文字数は 720 字以上 800 字以内です。

以下の文章を読み、今後、日本でも様々な背景を持つ人が増えていくことをふまえたうえで、自身が考えたことを 720 文字以上 800 字以内で論じてください。内容にふさわしい題名もつけてください。

日本語以外の言葉をまったく使えない私は、日本語以外の言語を第一言語とする人が日本語を学習して使ってくれれば、本当に助かります。相手に感謝と敬意を伝えたいとも思います。でも、私と同じような人が似たような状況で「日本語、お上手ですね」と相手に言っているのを聞くと、なんだかいたたまれない気分になります。

もちろん、悪気がないのはわかります。でも、日本語を使いこなせる人同士の間で相手の日本語を褒めることはありませんよね？ ということは、相手の日本語をほめることは、そのつもりがなくても「わざわざ」ほめていることになってしまっているわけで、それは裏返せば、相手を「日本語を使いこなせる人」扱いしていない、ということにほかなりません。相手の日本語に実は少しだけおかしいところがあるとか、本当は日本語なんて話せないはずなのに、といった、相手が日本語を話すことが「自然ではない」というかくれた前提を相手が受け取ってしまうとしたら、それはとても残念なことです。現に、日本語をほめられているうちはまだまだだ、という経験則が日本に来る留学生の間で語られることもあるようです。

そもそも、日本語を話せるからといって、日本語を学んでいる人を指導したり評価したりする必要も義務はありません。単に会話をすればよいし、相手の日本語をうまく理解できないところがあれば、素直にその真意をたずねればよいのです。そうやって相手の経験や考えに真摯に向き合うことが、結果として日本語を学んで使ってくれている人へ感謝と敬意を伝えることになると、私は思います。

出典：森山至貴『あなたを閉じ込める「ずるい言葉」』WAVE出版，2020，p48.